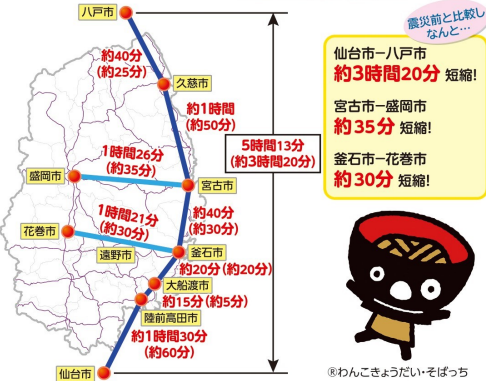


# 復興道路の整備効果〔直接効果〕

➡ 都市間の所要時間が大幅に短縮されます！

## 【復興道路完成後の都市間所要時間】

※括弧書きは震災前からの短縮時間



⑦わんこきょうだいそぼっち

※仙台～八戸間、宮古～盛岡間、釜石～花巻間は各市役所間の所要時間を記載。その他の区間は、各市役所最寄りIC・JCT間の所要時間を記載。

➡ 災害に強い道路になります！

○三陸道は、山沿いへのルート選定や沿岸部を橋梁にすることで、東日本大震災津波の浸水区域を回避する災害に強い道路です。



### 《関係者の声》

- ワーブしたかと思うくらい、移動が速くなった。夢のようだ。
- 三陸道は、沿岸部を通過し降雪が少ないので安心して走行できる。(運送会社)

# 復興道路の特徴

## Q1.道路の構造を教えてください

ほとんどの区間が「自動車専用道路」です。



東北道などの有料の高速道路と同様の規格の高い道路です。

※宮古盛岡横断道路の一部の区間のみ一般道路となっています

## Q2.有料ですか

岩手県内の復興道路は、東和～花巻間を除き、**全て無料**で使えます。



【標識例】

## Q3.休憩施設はありますか

復興道路から案内している最寄りの道の駅をご利用下さい。



インターチェンジに料金所がないのでスムーズな出入りができます。

【復興道路本線に設置された標識例】

## ～知事メッセージ～

三陸がつながる。日本各地や世界とつながる。ひとつになって 更に前に進む。

東日本大震災津波からの復旧・復興のために、国内の皆様からいただいた多くの御支援や温かい激励に対し、心から感謝申し上げます。

国による震災からの復興のリーディングプロジェクトとして、かつてないスピードで整備が進められた復興道路復興支援道路は、発災から10年目の令和3年12月に全線開通を迎えました。

この全線開通により、三陸沿岸がつながり、三陸沿岸と内陸もつながり、つなげた岩手県が日本各地や世界とつながることができ、岩手県政において歴史的な出来事となりました。

今後、復興道路等は、物流、観光、救急医療、防災など様々な面で効果を発揮し、復興を力強く後押ししていくものと確信しております。

岩手県としては、国や市町村、関係者の皆様と一体となって復興道路・復興支援道路の活用を促し、復興に取り組みながら、「いのちを守り、海と大地と共に生きる、ふるさと岩手三陸の創造」を目指し、住む人と訪れる人の幸福を増やすことができるよう、全力で取り組んでまいります。



祝  
岩手県内 359km  
全線開通  
R3.12.18

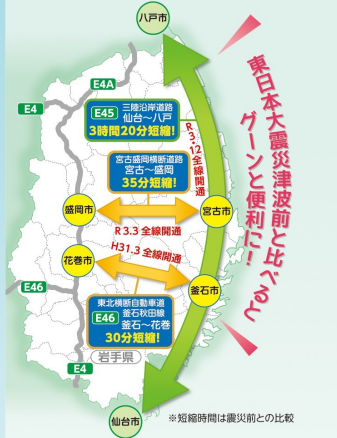
# いわての復興道路



R3.12.18 三陸沿岸道路 全線開通



R3.3.28 宮古盛岡横断道路 全線開通



H31.3.9 東北横断自動車道釜石秋田線 全線開通

三陸がつながる。日本各地や世界とつながる。ひとつになって 更に前に進む。

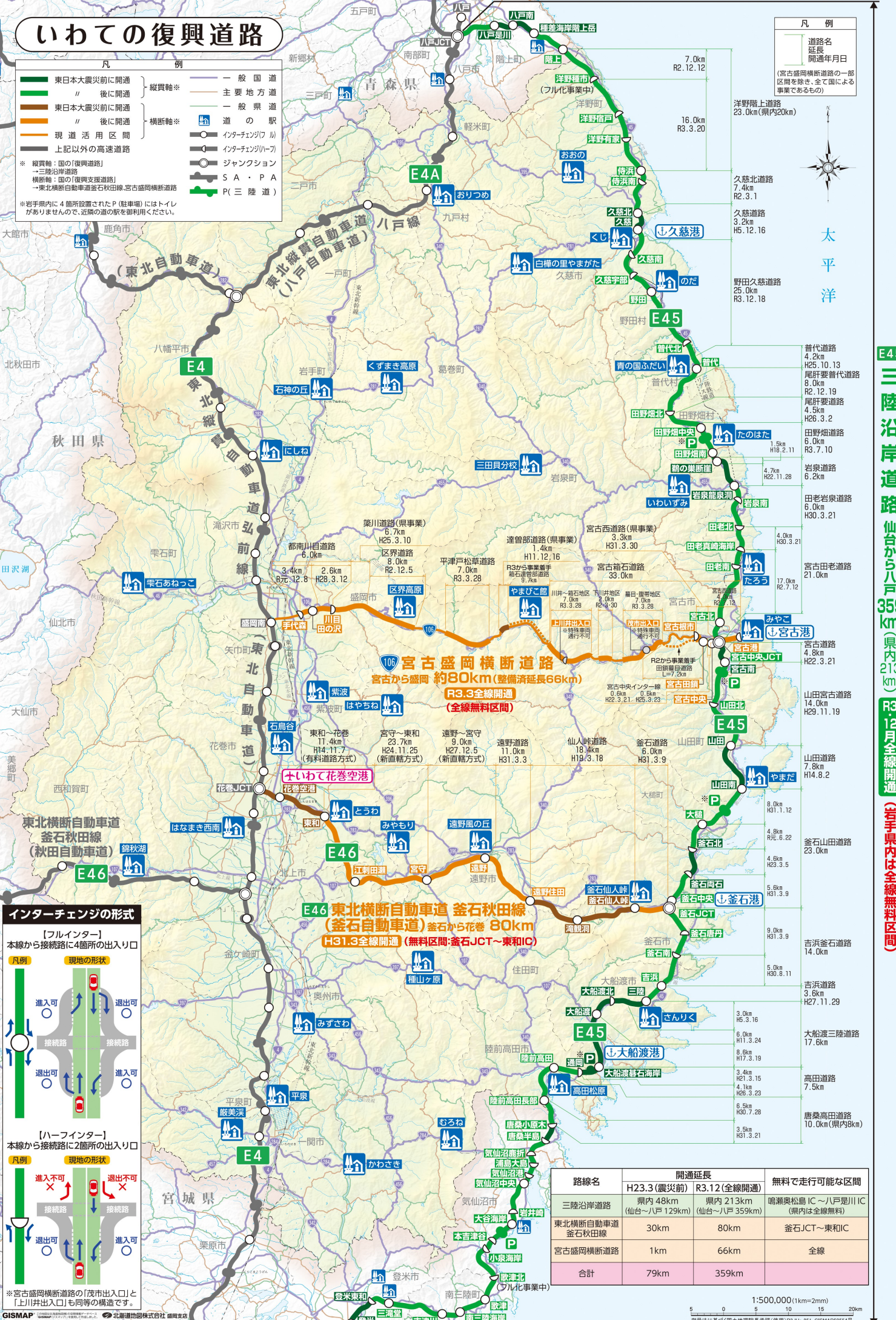
# いわての復興道路

- 凡例**
- 東日本大震災前に開通
  - // 後に開通
  - 東日本大震災前に開通
  - // 後に開通
  - 現道活用区間
  - 上記以外の高速道路
  - 縦貫軸\*
  - 横断軸\*
  - 一般国道
  - 主要地方道
  - 一般県道
  - 道の駅
  - インターチェンジ(フル)
  - インターチェンジ(ハーフ)
  - ジャンクション
  - S・A・P・A
  - P(三陸道)
- \*縦貫軸：国の「復興道路」  
→三陸沿岸道路  
横断軸：国の「復興支援助路」  
→東北横断自動車道釜石秋田線、宮古盛岡横断道路
- \*岩手県内に4箇所設置されたP(駐車場)にはトイレがありませんので、近隣の道の駅をご利用ください。

**凡例**

- 道路名
- 延長
- 開通年月日

(宮古盛岡横断道路の一部区間を除き、全て国による事業であるもの)



**E45 三陸沿岸道路 仙台から八戸 359 km (県内 213 km)**

**R3 12月全線開通 (岩手県内は全線無料区間)**

**インターチェンジの形式**

【フルインター】  
本線から接続路に4箇所の出入口

【ハーフインター】  
本線から接続路に2箇所の出入口

※宮古盛岡横断道路の「茂市出入口」と「上川井出入口」も同様の構造です。

路線名	開通延長		無料で走行可能な区間
	H23.3(震災前)	R3.12(全線開通)	
三陸沿岸道路	県内 48km 仙台～八戸 129km	県内 213km 仙台～八戸 359km	鳴瀬奥松島IC～八戸是川IC (県内は全線無料)
東北横断自動車道 釜石秋田線	30km	80km	釜石JCT～東和IC
宮古盛岡横断道路	1km	66km	全線
合計	79km	359km	

1:500,000 (1km=2mm)

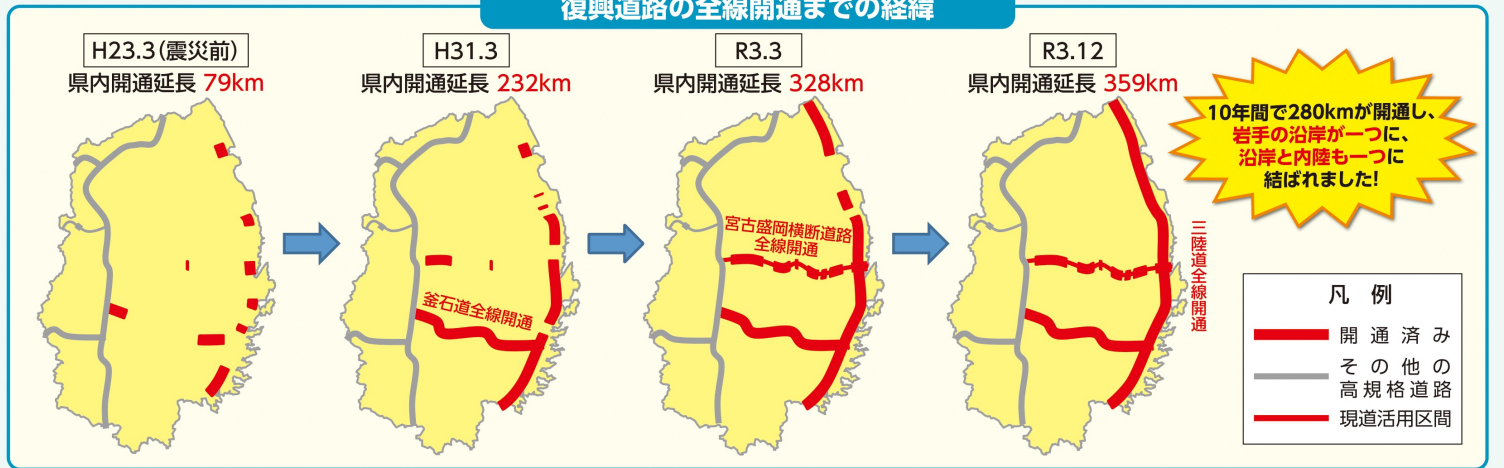
測量法に基づき国土院院長承認(使用)R3.12.21-GISMAP05054号

# 復興道路の事業化から全線開通までの歩み

東日本大震災津波での甚大な被害を受け、国は、復興のリーディングプロジェクトとして、三陸沿岸道路（三陸道）、東北横断自動車道釜石秋田線（釜石道）及び宮古盛岡横断道路の重点整備を進める意向を表明し、平成23年11月に未事業化区間約187kmを新たに事業化しました。

事業中区間の約93kmを加え、**岩手県内の総事業延長は280km**という過去に例を見ない規模の事業ですが、事業化から1年を経たずに着工する「**即年着工**」を行うなど、震災から10年で約2.2兆円の事業費（青森県、宮城県、福島県分を含む）によりかつてないスピードで事業が展開され、**令和3年12月に全線開通**を迎えました。

## 復興道路の全線開通までの経緯



年月日	開通延長	発災から復興道路の全線開通までの主な出来事 ( :開通延長を示したグラフ)
H23.3.5	79km	三陸道「釜石両石～釜石北」が開通。3.11の被災直後には「命の道」として機能。 <b>TOPICS1</b>
3.11	◇	宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の地震と大津波が発生。
4.30	◇	県が、閣議決定により設置された東日本大震災復興構想会議で「復興道路」の整備を要望。
6.25	◇	東日本大震災復興構想会議の「復興への提言」に、「太平洋沿岸軸（三陸縦貫道等）の緊急整備や太平洋沿岸と東北道とを結ぶ横断軸の重点整備」が掲載。
8.30	◇	国が、三陸道及び釜石道における未事業化区間のルートと出入口を決定。
9.7	◇	県が、宮古盛岡横断道路の未事業化区間における優先整備区間を選定し、その概ねのルートを公表。
11.21	◇	三陸道、釜石道、宮古盛岡横断道路の合計187kmが3次補正予算により国の事業として新規事業化。
H24.4.9	◇	事業展開上の拠点となる南三陸国道事務所を釜石市に開所。 <b>TOPICS2</b>
11.4	◇	釜石道「釜石～釜石西」の「即年着工」による起工式。 <b>TOPICS3</b>
11.18	◇	三陸道「宮古中央～田老」の「即年着工」による起工式。 <b>TOPICS3</b>
11.25	116km	釜石道「宮守IC～東和IC」23.7kmが開通。復興道路として初の開通。
H25.3.10	123km	宮古盛岡横断道路「築川～川目」6.7kmが開通。同路線として発災後初の開通。
10.13	127km	三陸道「普代村第11地割～第16地割」4.2kmが開通。県内の同路線として発災後初の開通。
H26.8.24	◇	宮古盛岡横断道路「平津戸松草～区界道路」の起工式。これをもって県内の復興道路は全て着工。
H29.11.19	166km	三陸道「山田IC～宮古南IC」14kmが開通。震災後事業化された区間として初の開通。
H31.3.9	226km	三陸道「釜石南IC～釜石両石IC」14.6km、釜石道「釜石JCT～釜石仙人峠IC」6kmが開通。同2路線が接続し、沿岸と内陸が初めて高速交通体系で結ばれる。 <b>釜石道 80km 全線開通</b>
3.30	232km	宮古盛岡横断道路「宮古中央IC～宮古根市IC」3.3kmが開通。三陸道と宮古盛岡横断道路が接続。
R2.7.12	271km	三陸道「宮古中央JCT～田老真崎海岸IC」17km、宮古盛岡横断道路「宮古港IC～宮古中央IC」4kmが開通。宮古港と宮古盛岡横断道路が直結。
12.5	279km	宮古盛岡横断道路「区界～築川」8kmが開通。道路では県内最長となる約5kmの「新区界トンネル」が供用。
R3.3.20	307km	三陸道「待浜IC～洋野種市IC」16kmが開通。
3.28	328km	宮古盛岡横断道路の「暮日～腹帯」7km、「川井～箱石」7km、「平津戸～岩井～松草」7kmの合計21kmが開通。 <b>宮古盛岡横断道路 66km 全線開通</b>
12.18	359km	三陸道「普代～久慈IC」25kmが開通。発災から10年で、 <b>岩手県内359kmの復興道路が全線開通</b> 。 <b>三陸道 213km 全線開通</b>

10年間で280kmが開通し、岩手の沿岸が一つに、沿岸と内陸も一つに結ばれました!

凡例  
 開通済み  
 その他の高規格道路  
 現道活用区間



### TOPICS1 「釜石の出来事」 ～子どもたちを救った「命の道」～

地震発生後直ちに避難を開始した釜石市の鶴住居小学校、釜石東中学校両校の児童・生徒らは、約1週間前に開通した三陸沿岸道路を使うことにより、旧釜石第一中学校へ無事に避難することができました。この道路は、通行不能となった国道45号の迂回路として機能し、避難路のみならず、地域の孤立解消を図る、まさに「命の道」としての役割を果たしました。



### TOPICS2 「南三陸国道事務所の開所」 ～事業展開の拠点を設置～

平成24年4月9日、国は、復興道路の1日も早い事業の完成に向けた体制強化を図るため、「南三陸国道事務所」を釜石市に設置し、三陸道及び釜石道の整備を進めました。



### TOPICS3 「即年着工」 ～事業化から1年以内の着工～

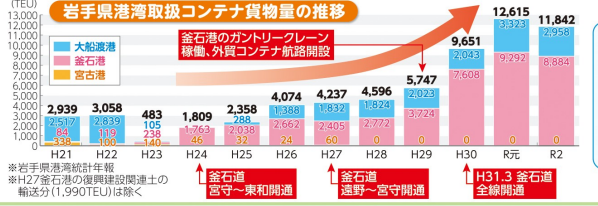
通常、事業化から工事着手するには4年程度を要しますが、国の尽力と、国・県・市町村間のスムーズな連携、復興にかける地元の協力と熟慮により、事業化から1年以内で工事着手するという、異例の「即年着工」が行われました。



# 復興道路の整備効果 [波及効果]

## ▶ 港湾利活用を支援します！

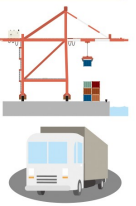
○釜石道が整備されるとともに、港湾のポートセールスなどの取組みにより、令和元年度には過去最高のコンテナ取扱量を記録しました。



### 《関係者の声》

○復興道路と港湾が一体となった活用により**岩手と世界**がつながった。

○更なる活用により、物流拠点化が進み、**地域が活性化**するよう取り組んでいく。  
(釜石市)



## ▶ 企業立地を支援します！

○内陸部では、釜石道や釜石港の整備などを契機とした企業立地が進展しています。



### 《関係者の声》

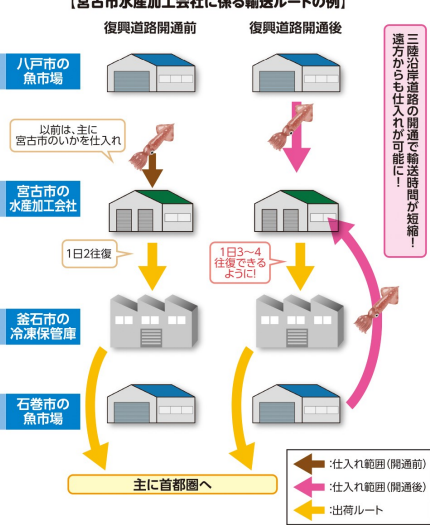
○釜石道と三陸道の開通により、内陸と沿岸の中間地点である**遠野市**を拠点とする**企業立地**が進んでいる。

○ものづくり産業をはじめ、観光・医療・福祉等の**拠点**を目指す。  
(遠野市)



## ▶ 水産業を支援します！

○世界三大漁場として知られる三陸沖における、新鮮な海の恵みに育まれた水産物の安定的・広域的な流通を支援します。



### 《関係者の声》

○三陸道が開通し、積極的に**宮城県、青森県**からの仕入れができるようになった。

○宮古市から釜石市の保管庫までの1日あたりの運搬回数が増え、**生産量も増加**している。  
(宮古市の水産加工会社)



## ▶ 「道の駅」による地域振興を支援します！

○三陸沿岸地域に整備された「道の駅」が、復興道路と一体となり、道路利用者へ体験サービスを提供するとともに、地域の観光振興や地域活性化を支援します。



### 《関係者の声》

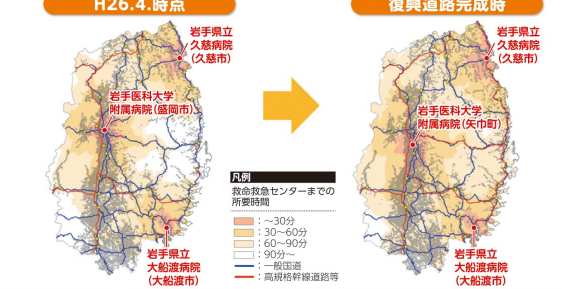
○道の駅や観光地等との移動時間が短縮されることで、**岩手県沿岸地域が一体**となった**観光振興**につながると期待している。  
(久慈市)

○三陸道を有効に活用し、**観光のゲートウェイ**として、**町に賑わい**が広がる道の駅を目指していく。  
(山田町)



## ▶ 救急搬送を支援します！

○復興道路の開通により、三次救急医療機関へのアクセス性が大幅に向上しました。



### 三次救急医療機関へ60分で可行人口

救急医療機関へのアクセス向上

《関係者の声》

○急勾配、急カーブ区間を bypass し、**安全**で**より早く搬送**できるようになった。(消防関係者)

○大幅な時間短縮により、**迅速な救急医療の実施**が期待できるようになった。(医療関係者)

## ▶ 三陸の観光振興や震災伝承に向けた取組を支援します！

○三陸ジオパーク、三陸復興国立公園、みちのく潮風トレイルなどの魅力的な観光資源を生かした観光振興や、国土交通省、被災4県1市で発足した「震災伝承ネットワーク協議会」などによる震災伝承に向けた取組を支援します。

### 復興道路、主な観光地等、主な震災伝承施設

三陸鉄道リアス線、三陸鉄道冬の名物「こたつ列車」、被災地の「令」を直接学ぶ「震災学習列車」、三陸復興国立公園、東北地方整備局、大船渡市立博物館、三陸復興国立公園、みちのく潮風トレイル、震災伝承施設ピクトグラム

### TOPICS

東日本大震災津波伝承館には、修学旅行の校外学習等により多くの団体が訪れており、震災の記憶と教訓を伝承する場として幅広い世代に活用されている。

### 校外学習での利用団体数

年度	学校	大学	高校	中学校	小学校
令和元年度	47				
令和2年度	242				
令和3年度	318				

### 《関係者の声》

○復興道路を利用して、**遠方から来館**される方がたくさんいる。震災を風化させないよう、**震災の事実と教訓**を世界及び次世代に伝えていきたい。  
(東日本大震災津波伝承館)

○復興道路の開通により、1日の**移動範囲が劇的に広がる**ことにより、日本一巨大な三陸ジオパークである三陸ジオパークを周遊しやすくなった。多くの方に**三陸ジオパークのサイト**等、三陸沿岸の名所を訪れていただけるよう、**魅力を発信**していきたい。  
(三陸ジオパーク推進協議会)